

平成 23 年度 第 1 回 標準部会 標準化会議 議事録 (案)

1. 日 時 平成 23 年 9 月 22 日 10:00～12:00
2. 場 所 機械振興会館 2 階 201-2 協会 A 会議室
3. 出席者氏名 計 10 名出席
(部会長) 森山 雅之 (コマツ)
(委 員) 釜石 英雄 (厚生労働正)、内藤 智男 (経済産業省、オブザーバ)、
渡邊 充 (TC 195 委員長、大成ロテック)、
落合不二男 (TC 214 委員長、アイチコーポレーション)、
田中 利昌 (製造業部会代表、日立建機)、
西ヶ谷 忠明 (施工技術総合研究所)、山名 良 (協会事務長)
(事務局) 小倉 公彦、西脇 徹郎 (協会)

4. 議題及び審議内容

4.0 開会：森山部会長挨拶ののち部会長の司会により議事を進行した。なお、開会に先立って事務局より配付資料を説明した。また、前回議事録については、ご意見あれば事務局宛お知らせいただくこととした。

4.1 平成 23 年度上期報告及び今後の予定：

- 1) 国内標準委員会：事務局より資料 平 23-1-1 を参照して国内標準委員会の ISO に基づく JIS 原案作成状況及び今後の予定が報告・了承された。なお、現状の問題点として下記がある。
 - 平成 23 年度高所作業車安全 C 規格 (機種別安全規格) JIS 原案作成に関して、草案 (ISO 16368 対訳) を提示して高所作業車の利害関係者の JIS 原案作成委員会への参画の意向を確認中であるが、やや手間取っている。
 - (前回も問題となっていた) 過年度作成の JIS 原案のうち、ISO 15817 に基づく JIS 案 (遠隔操縦の安全要求事項) に関して、日本工業標準調査会 JISC の産業機械技術専門委員会での指摘について、未だに対応がまとまっていないので、早急に結論を出す必要がある。
- 2) ISO/TC 127 土工機械委員会：事務局より資料 平 23-1-2 を参照して TC 127 土工機械委員会の活動状況及び今後の予定が報告され、TC 127/SC 2/WG 13 (クイックカプラ) 交際 WG 会議出席を追記することとして了承された。なお、活動上の重要な点として下記がある。
 - ISO 15143 (施工現場情報交換) シリーズの今後の展開に関して、実質担当の土木研究所の多忙などの問題があり、何らかのバックアップ要である。

- ISO/FDIS 15818.2（つり上げ及び固縛箇所）に関して、機械メーカー側は対応に困難との問題があり、海外からも国際 WG 開催して打開との要請あり、早急な対応要である。
 - ISO/FDIS 15817（遠隔操縦の安全要求事項）に関して、前述 JIS 化の際の問題点に関して国内意見の集約が必要である。
 - TS 11152（エネルギー使用試験方法）などの重要案件で、海外担当国の動きがにぶいなどの問題があるが、日本担当外で手が打ちにくい状況にある。
- 3) **ISO/TC 214 昇降式作業台委員会**：落合委員長より資料 平 23-1-3 を参照して同委員会の活動状況が報告され、了承された。なお、TC 214/WG 2 の案件である移動昇降式足場などに関して、関係する団体との連携が必要となろう。
- 4) **標準部会上期報告**：標準部会上期事業報告について資料 平 23-1-6 により事務局案が説明され、事業報告全般に対して、内藤委員より、何のために標準化活動を行うのかという立場で、協会経営上の観点から記述すべきではないかとして次の指摘が行われた。
- 土工機械の規格に関しては、現状の処理能力からは ISO に基づく JIS 化よりもメーカーが ISO の翻訳版を作成すべきではないか。
 - 情報化施工に関する ISO 及び JIS 化に関して、土木研究所のキャパシティが制約となるのであれば、それでよいのか。
 - 高所作業車の ISO に基づく JIS 化に関して、適切な（バランスの）委員会が組織できるのか・
- 5) **その他**：10 月 19 日予定の協会運営幹事会に関して、森山部会長は別用あるため、副幹事の砂村氏又は事務局が代理で報告するよう調整とされた。

以上